

# ひかりのこ

11月園便り

聖ミカエル幼稚園  
2016年10月20日

月主題：いっしょに

## 『小さな贈り物』

9月最後の日曜日に、毎年恒例のミカエルバザーが行われました。このバザーの収益の一番の使い道は、教会で何十年も続けている「アフリカ衣料（古着を発展途上国に送る活動）」の郵送料を捻出することにあります。ミカエル教会に連なる全ての人が協力し、交流し、力を合わせて、世界の中の困っている方たちのために働くことが目的です。

今年のバザーは、たくさんのお話し合いの結果、少し形を変えました。まず、幼稚園と教会がそれぞれ別々に出していた古着コーナー、雑貨コーナーを一つにして、教会員の皆さんと保護者の皆さんが協力して行う、という形になりました。お母さん方のゲーム・食品・手作り品のコーナーは装飾などを簡素化し、無理のない中で目的が達成できる形になりました。

また、去年まではお客さんとして参加していた子ども達も、今年からお店屋さんを開き、世界の困っている人たちのために働こう、ということになりました。

縦割り保育の時間に、各クラスで、余っていた白いろうそくを溶かし、クレヨンを削って少し入れ、とてもきれいなミニキャンドルを作りました。火を使って作りますので、先生に教えてもらって、やけどをしないように子どもたちは緊張しながら、頑張って作りました。

バザー当日は、年長さんがクラスごとに交代しながらキャンドルを売ってくれました。

元気なかわいらしい「いらっしゃいませ〜」という声に、たくさんのお客さんが集まり、どのクラスのキャンドルも、あっという間に完売になりました。また、当番の余った時間に婦人会のおばあちゃんや、雑貨のおじいちゃんのお手伝いをしました。かわいらしい「いらっしゃいませ〜」の声で、手芸コーナーも、雑貨コーナーもあっという間にお客さんが集まってきて、大成功でした。

バザー後すぐのお礼拝の日、私が「みんなバザーでたくさん頑張ってくれてありがとう。バザーで集まったお金は、どう使われるか知っている？」と尋ねると「知ってるよ。世界中の困っている人のために使うんだよ。」という答えがたくさん返ってきました。小さな子ども達ですが、自分の働きが、遠くにいる誰かへの素晴らしい「贈り物」となったことをきちんと理解していました。

このような経験を通して、子ども達が豊かな心を育み、身近なお友達や家族のこと、心身に障害を抱える方たちや、貧困の中にある世界中の

方たちのことをいつも心に思う、そんな大人に成長してくれたら、と願います。

良いお天気のもと、料理自慢ぞろいの婦人会や教会の方たちのお食事をいただいて、お腹も心も満たされた素敵な一日でした。

園長 渡部良子

## キリスト教保育

### 「約束」

キリスト教は「約束の宗教」といわれることがあります。旧約聖書と新約聖書もまた、古い約束と新しい約束という意味です。キリスト教も、その母体であるユダヤ教も、神と人間との約束、人間同士の約束が非常に大切にされています。

最近では日常生活の中で、約束という言葉が聞かなくなった気がします。仕事上の契約関係以外に、誰かと約束を交わさなくても、生活に支障はありません。たとえ約束をしたとしても、破られて大きな傷を負わないように安全弁を備えているかも知れません。

私は常々、子どもたちには約束を守るの意味と大切さを知って欲しいと感じています。はっきりと約束という言葉を使わなくても、相手との間に約束を意識することがあります。約束とは相手を尊重すること、そして約束が破られることは、互いに傷つくことです。自分が独りではなく、人との関係で生きていることも、約束を通して実感できます。

私たちはほとんど無意識に、人間同士の約束は、あまり当てにならないとあきらめてはいないでしょうか。しかし、思い出してみると、子どもは親に対して、契約書などは交わさなくても、親は自分を見放さないという約束を信じて生まれてきます。その無言の約束を、親もまた一生懸命に守ろうとするはずで、この約束があるから、私たちは安心して子ども時代を過ごせるのです。

キリスト教では神と人間も、親子関係に喩えられます。ただし、この約束は、守ったからといってお金持ちになったり、宝くじに当たったりすることではありません。自分だけが豊かになるような願いは叶えてくれないのです。けれども、同時に神は、困難に直面している人を決して見捨てることはありません。イエスという人を通して、ともに苦しみ、ともに困難を乗り越えようとする。そのような約束を生きようとする、まことの親として神なのです。

チャプレン 下澤 昌